
(仮称) 洪水リスク表示図について

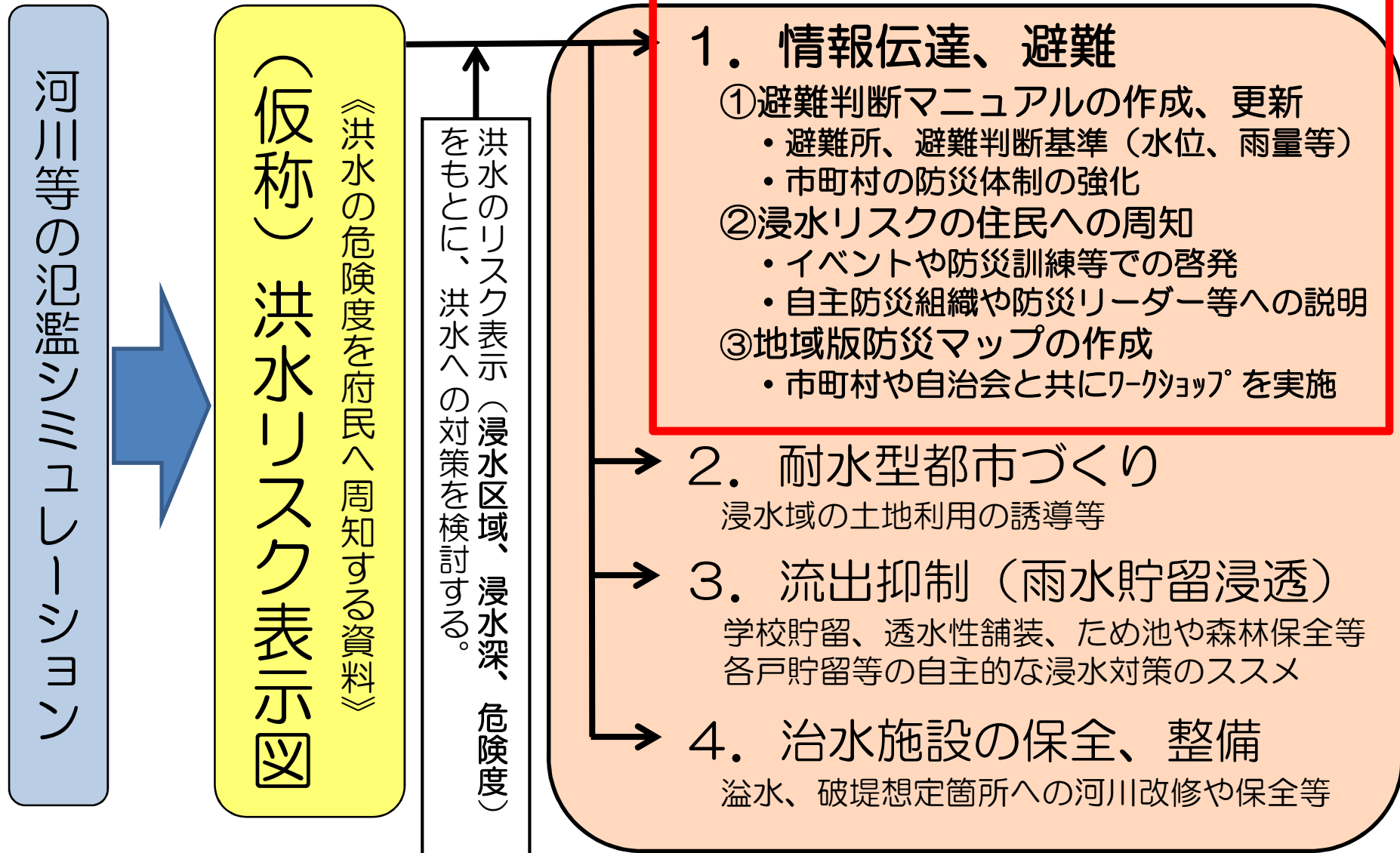
平成23年3月30日

大阪府都市整備部

(仮称) 洪水リスク表示図

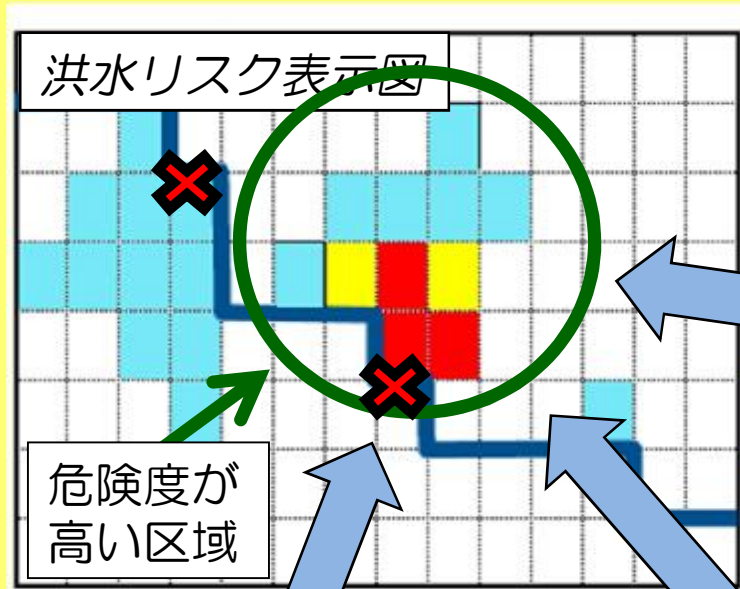
	浸水想定区域図【参考】	(仮称) 洪水リスク表示図
河川数	39河川（水防警報河川）	154河川（大阪府下全河川）
表示する確率降雨	80mm/h（100年に一度の大雨）	50mm/h（10年に一度の大雨） 65mm/h（30年に一度の大雨） 80mm/h（100年に一度の大雨） 90mm/h（200年に一度の大雨）
表示内容	浸水深	危険度，浸水深
河川の整備状況	現状	現状，治水対策実施後
表示情報	発生する最大の浸水深	時間経過に伴う氾濫情報

(仮称) 洪水リスク表示図



1. 情報伝達・避難

●洪水リスクの高い箇所の抽出



○地域防災マップの作成

《府と市連携のワークショップを開催》

①マップの作成

住民自らの手で、避難時に必要となる情報の図面への書き込み



②まちあるきの実施

作成した防災マップをもとに避難経路を実際に歩くことにより危険箇所を確認



③防災訓練の実施

作成した地域防災マップを使った避難等の防災訓練の実施



○避難判断マニュアルの作成、更新

- 大阪府が市町村の避難マニュアル作成を支援
- 市町村の防災体制の更なる強化

○まるごとまちごとハザードマップ

災害時に避難に必要な情報を身近に表示することで、平常時についても防災意識が向上



住民とのワークショップの例（土砂災害）

第1回ワークショップ

土砂災害とその前兆現象について

土砂災害対策や前兆現象、地区の防災体制や地域版防災マップについて大阪府や砂防ボランティアから説明



第2回ワークショップ

地域の伝承・災害履歴について

地区住民から災害履歴や注意すべき箇所の聞き取り。グループに分かれて図面上に記入



第3回ワークショップ

フィールドワークの実施

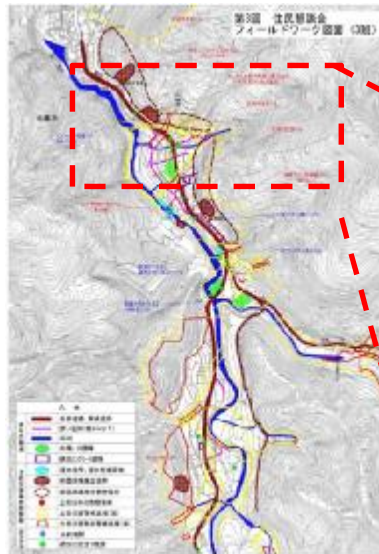
地区住民と共に現地確認。前回作成した地域版防災マップと照らし合わせ、現場での問題や課題を抽出



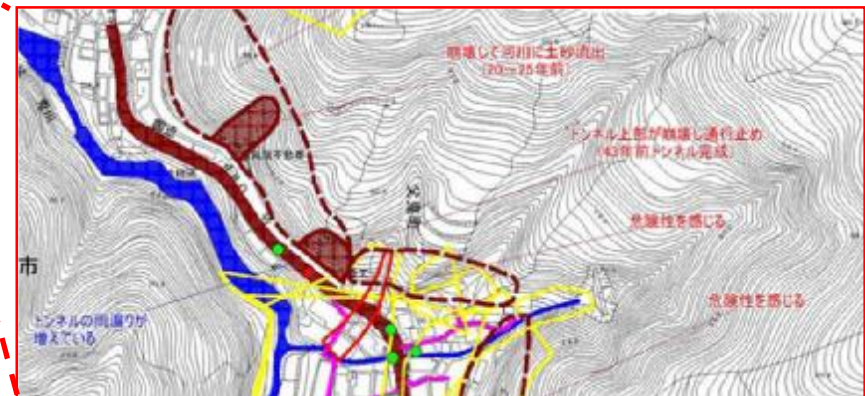
第4回ワークショップ

地域の警戒避難体制について

自分から情報を収集・発信し、いつ・どこに逃げるのか、地域の自助・共助による自主警戒避難体制を検討

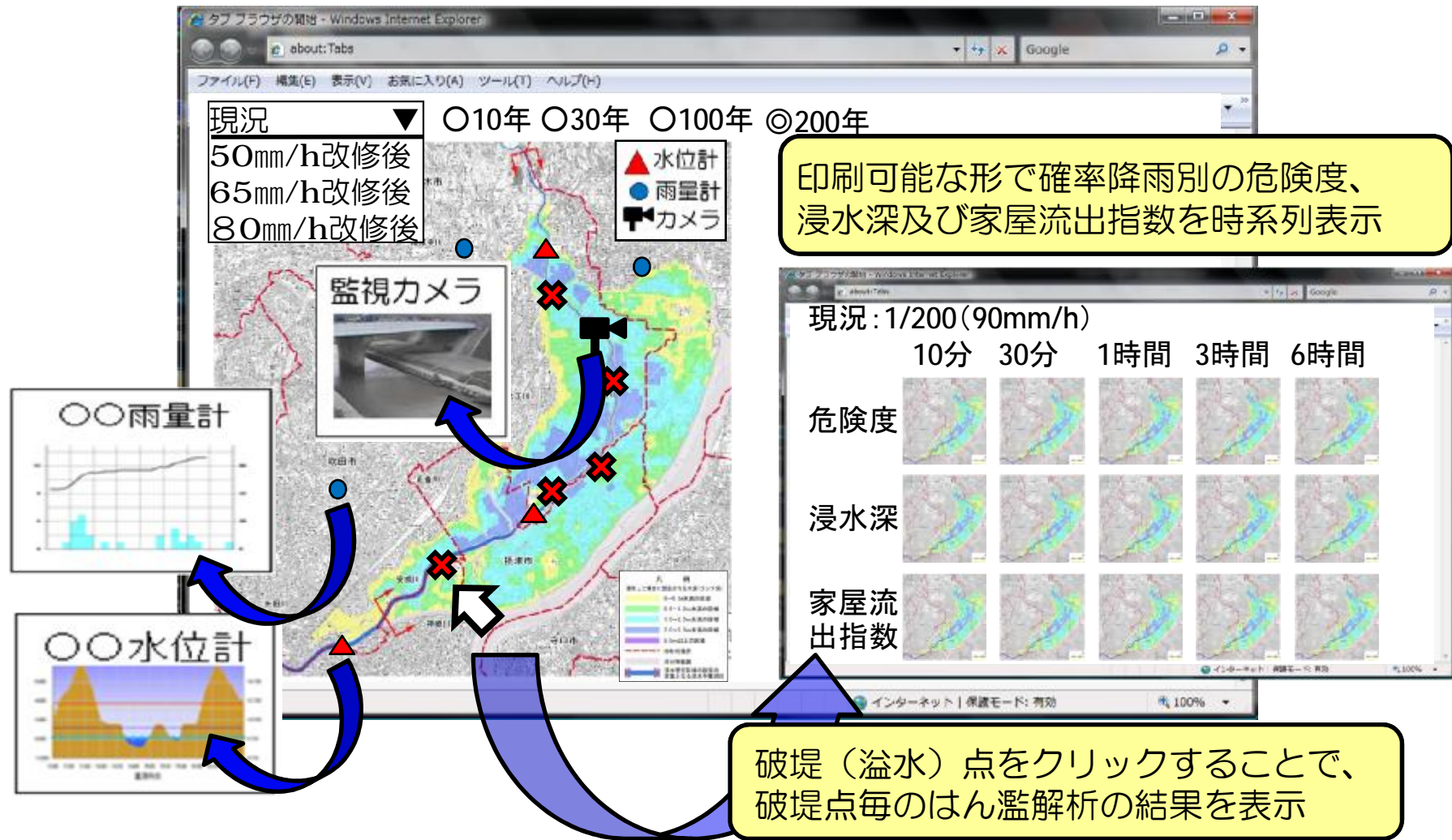


地域住民が自ら作成した地域版防災マップ



一部拡大

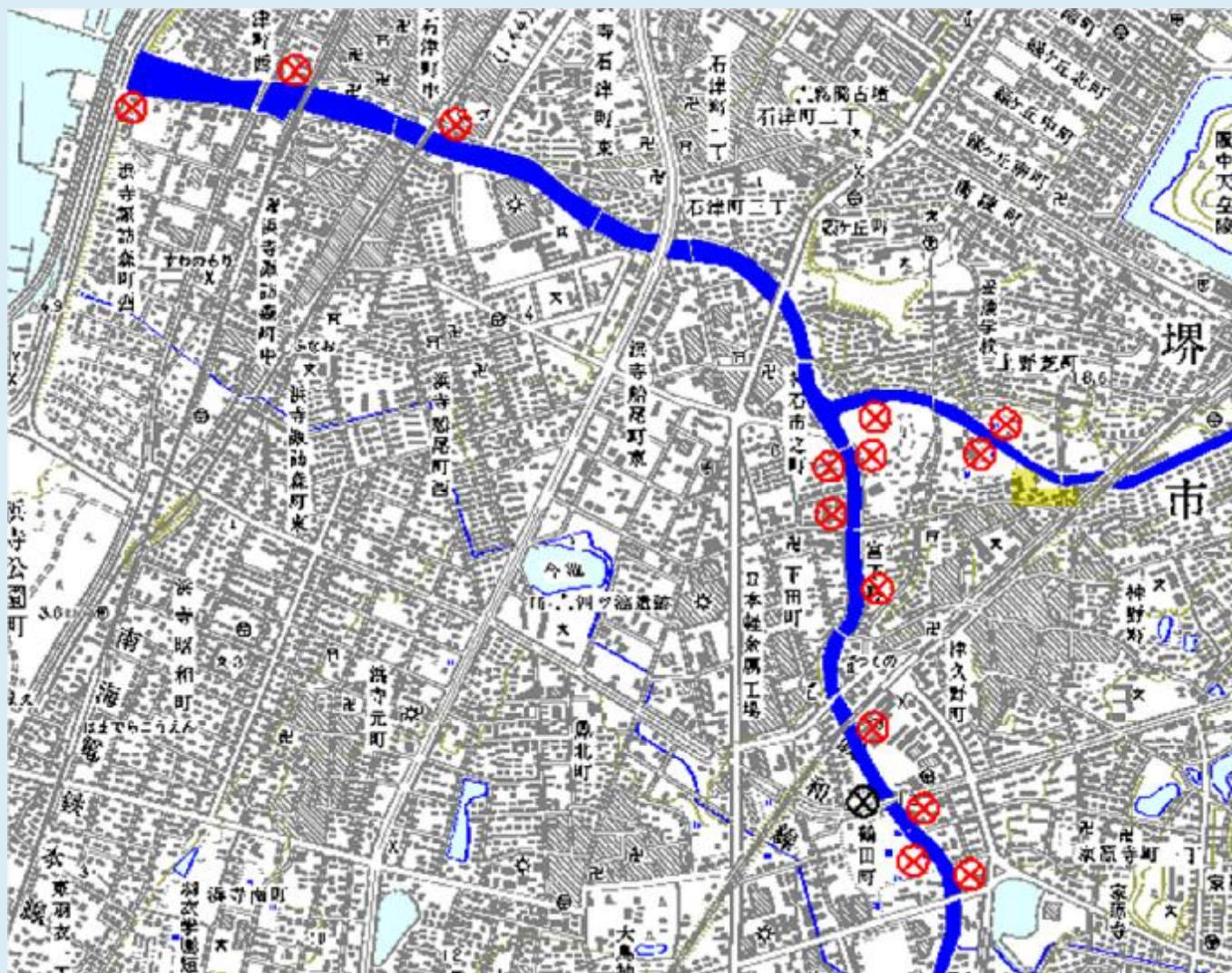
(仮称) 洪水リスク表示図の開示例



1. シミュレーションの前提条件、注意事項及び用語等について説明
2. 府民の意見等を取り入れ、随時わかりやすいものに改善

わかりやすい（仮称）洪水リスク表示図の検討

●浸水域の広がり動画を示した例



- 破堤点毎の浸水域の広がりを動画で示すことにより、浸水をイメージできるものにする。

2. 耐水型都市づくり

○都市計画区域マスタープランへの位置づけ

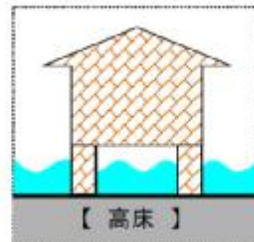
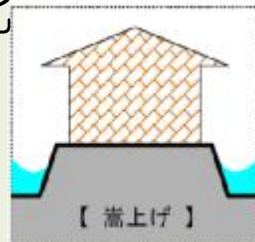
大阪府が市町村との役割分担のもと、都市計画の基本的な考え方を定めるものとして「都市計画区域マスタープラン」を**今年度策定**【北部大阪・東部大阪・南部大阪】

「溢水や湛水等の発生のおそれのある区域は、原則として、市街化区域へ含めないものとする」

市町村と共に具体化するための制度の検討が必要

○家屋の高床化

洪水に強い構造の家屋建築の推進



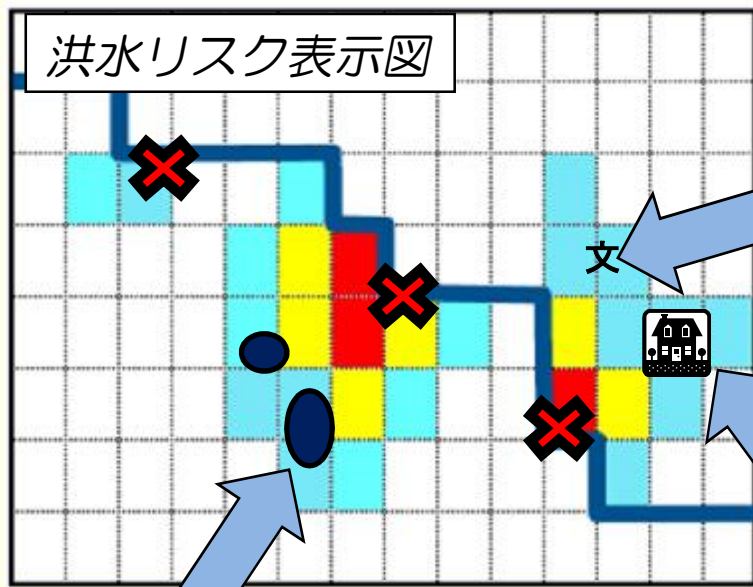
○輪中堤



3. 流出抑制

●洪水リスクの高い箇所の抽出

洪水リスク表示図



○雨水流出抑制（校庭貯留・屋上緑化・各戸貯留・透水性舗装等）



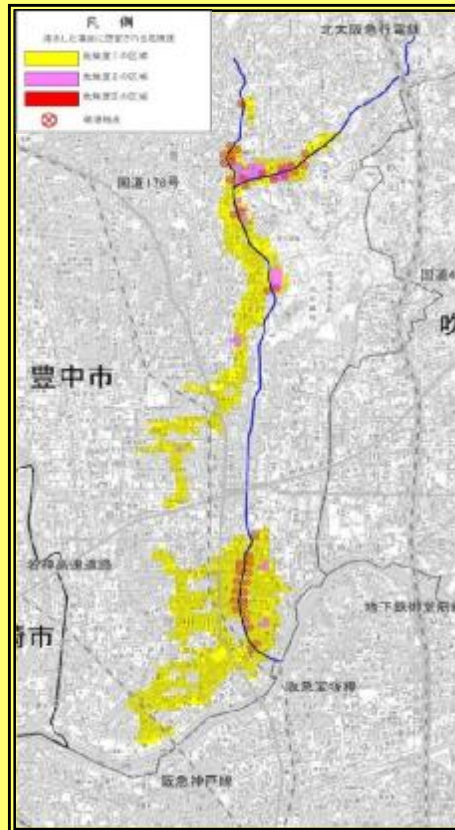
○ため池の保全、有効活用



4. 治水施設の保全・整備

●河川改修状況別の危険度分布

(■天竺川：外力規模 80mm/h)



天竺川 現況河道



天竺川 50mm.h危険度対応整備



天竺川 80mm/h危険度対応整備

危険度に応じた河道改修、調節地及び流域抑制等を整備